

春夜洛城に笛を聞く

李

白

誰が家の玉笛か暗い声も飛ばす

散じて春風入る洛城に満つ

此の夜曲中折柳を聞く

何人が故園の情を起さざらん

【作者】李 白(七〇一〜七六二年)・盛唐の詩人、杜甫と並び称される。蜀の錦州彰明県青蓮郷の人で青蓮居士と号した。幼にして

俊才、剣術を習い任侠の徒と交わる。長じて中国各地を遍歴し、四十二歳より四十四歳まで玄宗皇帝の側近にあり、後再び各地を転転とし多くの詩をのこす。安祿山の乱に遭遇して、罪を得たがのち赦される。六十二歳、病のために没す。

【語釈】\*暗…どこからともなく。 \*洛城…洛陽城。東都洛陽の都。 \*折柳…折楊柳の曲この曲は漢代以来の古楽府で、別離の情をうたう当時旅立つ人に柳の枝を折って贈るという風習があった。したがって折楊柳とは別れの曲である。 \*故園…故郷。 \*情…想い。

【通釈】誰の家で吹く玉笛であろうか、どこからともなく笛の音が聞こえてくる。それは折からの春風にのって、洛陽の街いっぱいになり満ち渡るようである。こんな夜、曲の中に折楊柳の曲があったが、この曲を聞けば、だれが故郷を恋い慕う思いを起さずいられようか。